

令和3年度 第2回沖縄県がん診療連携協議会 離島・へき地部会 議事要旨

日 時：令和3年9月7日（火）15:00～16:20

場 所：Zoom を利用した Web 会議

構成員：13 名

出席者：10 名（1 名代理出席）

菊池馨（県立八重山病院）、赤松道成（北部地区医師会病院）、見里悟美（県立宮古病院）、我如古春美（北部地区医師会病院）、朝倉義崇（県立中部病院）、戸板孝文（県立中部病院）、友利寛文（那覇市立病院、足立源樹代理出席）、真栄里隆代（ゆうかぎの会）、平良美江（県立八重山病院）、増田昌人（琉大病院がんセンター）

欠席者：3 名

松村敏信（県立宮古病院）、伊波善之（沖縄県保健医療部健康長寿課）、田盛亜紀子（やいまゆんたく会）

陪席者：1 名

並里亜衣（琉大病院がんセンター）

【報告事項】

1. 令和3年度 第1回離島・へき地部会議事要旨について

赤松副部長より資料1に基づき、令和3年度第1回離島へき地部会の議事要旨について説明があった。

放射線治療施設への紹介手順の補足事項及び放射線治療施設一覧については、6月に更新を行い、県内16施設へ送付が完了していることを事務局から説明した。

2. その他

特になし。

【協議事項】

1. ロジックモデルの改訂・完成について

増田委員より資料2に基づき沖縄県がん計画中間評価及びがんセンターで作成したロジックモデルについて説明があった。足立委員より中間評価をせず、不具合が起きる度にロジックモデルを改訂するのではなく、今は数値が出せるもの・評価できるもの・評価できないものを区別するに止め、今は内容を変えず、今回がんセンターで改訂したロジックモデル案は次回の策定時に活かすべきではないかとの意見があった。

戸板委員より指標を変えず、今回は数値が取れなかったという結果を出して、次回策定時に指標が取れるものを再検討する。客観的に確実にとれる指標をしっかりとって、数字の推移を見た方が説得力があるのではないかと意見があった。赤松副部長より評価できるものはしっかり評価し、できなかったものに関しては評価できる手段を考える必要がある。また宮古・八重山・北部地区の各科のドクターがどのくらい必要なのか、どの専門ナースが必要なのか。それに対してどれくらい増やせたかを結果が出せれば、次回の策定時に指標として加えてもいいのではないかと意見が挙げられた。我如古委員より今現在、次年度の目標に対して認定ナースの充足率がどれくらいなのか、また認定ナースの種類等の現状が、前回の調査時から変化が出ているかと思われるのでアンケート、確認が必要であるとの意見があった。見里委員より、専門ナースの人材育成が今後どのようなようになるのか危惧することが多いため、医療者向けのアンケート調査を行ってもいいのではないのかという意見があった。真栄里委員より、連携医による島内での医療の質の向上や、月に何回ぐらい連携医が来た方がいいのか等調査することで今後に活かせるのではないかと意見があった。菊池副部長より、2次医療圏のデータが出ていないので、八重山病院として何を改善していいか見えてこない。できる範囲でデータを出して今後どうしていくかを検討していくべきだという意見があった。

平良委員より、専門医の確保が難しいことから標準的な手術療法が全ての項目でできていない状況にあることや、認定看護師は最低1人以上確保できている状況、がん相談員についても2人以上確保し、情報提供や患者支援につなげ、相談件数についても増加していることなど、事業として評価できるものは指標として加えられるのではないかと意見があった。

増田委員よりロジックモデルに関する質問や意見等があれば、増田委員が事務局まで連絡するよう説明があった。

2. 次回の開催日程について

増田委員より議事次第のとおり説明があり、提案の日程で承認された。

3. その他

特になし。